体育授業における
タッチング指導の影響について

学籍番号　（229339）
氏　　名（西端里奈）
主指導教員（鉄口宗弘）
副指導教員（井上功一）

１．はじめに

1.1 研究背景・目的

日常生活において，対人関係を築くにはコミュニケーションは不可欠である．だが，新型コロナウイルス感染症の影響によって人との接触が抑制される期間が長かったことやマスクで表情が見えないことなどが原因で生徒同士でのコミュニケーションが不足していると感じる．

澤は，体育授業が楽しかったと思う群において「笑顔の多い雰囲気のいい授業」，「仲良しな雰囲気だと運動嫌いでも楽しめる」と感じていると報告しており，体育授業において意図的にタッチングをさせることによって，生徒同士の関わりが多くなると，お互いを尊重し合える学習集団になることができると示唆している．友人との関わりの楽しさ，つまり社会的相互作用の価値に気づくことができることは体育授業に対する満足度を上げるのではないかと考える．

よって本研究は，生徒同士の関わりや学び合いを促進するために，生徒同士でのタッチングを積極的に導入した社会的相互作用に富んだ体育授業を実施し，これが生徒の体育授業における楽しさとどのように関連しているかを探究することである．このタッチングが生徒同士の友人関係に及ぼす影響を調査し，社会的相互作用の増加が体育授業の魅力向上や生徒の学習体験，満足度にどのような影響をもたらすかを詳細に明らかにしていくことで，著者が教育者として現場で活躍する際により質の高い学習環境の構築を実践できるものと期待できる．

1.2 タッチングについて

体育授業におけるタッチングとは，授業中に生徒が他の生徒とハイタッチや肩に触れるなどの接触をここでは表す．

タッチングは，対人関係を主とする職業である看護，介護，保育，教育の分野で数多く研究されてきている．さらに，教育の分野でも不登校児童生徒に対してタッチングを用いたかかわり方をした記録をまとめた報告[9]もある．タッチされることで不安感や緊張感が緩和し，リラックスの効果があるという実験結果の報告もある．

２．研究方法

中学校体育科の６単元にわたるバスケットボールの授業を実施した．

④ 動画撮影
第１時と第４時に同じ練習を実施し，タッチングを行った生徒の数を比較し，意図的なタッチングの導入が生じる影響を検討した．

⑤ 生徒へのアンケート調査
単元の最初最後にアンケート調査を実施し，生徒の感想や意識の変化を明らかにした．

⑥ ワークシートの分析
第１時と第４時でのタッチングを行った回答者の数を比較し，タッチングの経験が重ねられるにつれて感じ方にどのような変化が生じるかについて検討した．また，今後のタッチングに対する期待や希望，希望する場面についても分析を行った．

３．授業実践

3.1　授業実践の概要

授業実践では，生徒同士でのタッチングを積極的に導入した．第２時以降でタッチングを取り入れ，社会的相互作用を促進する授業を実施した．これらの授業実践を通じて，タッチングを通したコミュニケーションが学習環境に与える様々な影響を観察した．

3.2　結果及び考察

授業実践を通して多くの生徒がタッチングを通じてポジティブな影響を期待し，タッチングがクラス全体の雰囲気や協力を向上させ，授業においてポジティブな意識を醸成している可能性が示唆された．また，苦手意識の軽減や体育の楽しさ，自信の向上，協力やチームワークの中でのポジティブな経験，コミュニケーション，学習体験に対してポジティブな影響をもたらす一因となっていることが明らかとなった．挨拶やランニング，円陣など様々な場面での楽しさややる気が強調され，学習意欲や自己肯定感の向上につながっているようである．また，コロナ禍での人との触れ合いの不足を感じていた部分も，タッチングを通じて解消されたことがうかがえた．

４．まとめ

本研究の授業実践を通して，タッチングがクラス全体の雰囲気を向上させ，協力を促進し，授業全体において生徒たちのポジティブな意識を形成している可能性が示唆された．特に，継続的なタッチングの導入が一層ポジティブな結果を生む可能性が浮かび上がり，慣れ親しんだ状態でのタッチングが効果的であることが示唆された．

タッチングが単なる身体的な接触を超えて感情や協力関係にも深い影響を与える可能性があるため，信頼関係を築きながら効果的で適切なタッチングの実践を進めることが重要である．これにより，より広範で効果的なタッチングの導入が可能となり，生徒たちの学習体験や協力関係の向上に寄与することが期待される．